

平成25年7月14日
今週のベストショット



雁レクE 奈多フェニックス 対 新町ウインズ

昨年優勝の奈多フェニックスを1-2で破る大金星を挙げたウインズのヒーロー達

左から藤田征司投手、今林孝智捕手、城戸和裕一塁手

写真 奈多サンデーズ 鳥羽晃弘

青松園A 好調奈多クラブが今林瑠生投手の8奪三振で三友クラブを制す！

三友クラブ（1勝3敗1分）10001 2 足達●-広瀬

奈多クラブ（4勝0敗1分）13101× 6 今林（瑠）○-安河内

HR：安河内（奈多ク） 2BH：松尾（三友ク）今林（祐）（奈多ク） 盗塁：松尾（三友ク）

一回表三友クラブは、奈多クラブ今林（瑠）投手の立ち上がりを攻め、二死満塁から六番福井選手の内野安打で1点を先制した。その裏、反撃したい奈多クラブは、三友クラブ足達投手の制球難により連続四死球などでチャンスとなり、二死一二塁で五番安河内選手が左前適時打で同点とした。さらに二回裏奈多クラブは先頭の七番砂場選手の左前安打からWP・犠打で一死三塁とし、九番落石選手の適時打で逆転、続く一番今林（祐）選手の左翼線を破る二塁打で一死二三塁となり、犠飛・失策などで2点を追加し、この回3点を奪い試合の主導権を握った。三回裏にも奈多クラブは1点追加し、ダメ押し5点目となった。逆転したい三友クラブであったが、二回以降は今季好調の奈多クラブの原動力となっている今林（瑠）投手が立ち直り、毎回奪三振と好投されチャンスを作れなかった。しかし、五回表二死から三友クラブ四番松尾選手が意地の右翼越二塁打を放ち、途中出場の八尋選手の内野安打後の処理で奈多クラブ守備陣のまずい守りにより1点を返した。だがその裏、奈多クラブ五番安河内選手の本塁打で再び4点差となったところで、時間切れとなり2-6で奈多クラブが試合を制した。

（記事、写真：三苦ホーネッツ 永島貴文）



チェンジアップを有効に使った奈多クラブバッテリー。



8奪三振の奈多クラブ今林瑠生投手。



三回裏 ファールフライを取る三友クラブ広瀬捕手。



五回表 悪送球を誘ってホームへ突入する三友クラブ松尾選手。



五回裏 ダメ押しHRを放った奈多クラブ安河内祐貴選手。

奈多グラウンド 毎回得点の塩浜ジャガーズが22点の大差で快勝！

ブルーマーリンズ (1勝4敗0分) 0 0 0 0 0 0 渡島●、横山、末松ー尾田

塩浜ジャガーズ (1勝2敗1分) 3 5 8 6 × 2 2 内田○ー堀内

HR: 立石 (塩浜ジ) 3 BH: 内田 (塩浜ジ) 2 BH: 立石、荒木 (塩浜ジ)

盗塁: 竹尾3、水流 (瑞)、内田、荒木4、岩崎 (塩浜ジ)

塩浜ジャガーズ先発内田投手が好調な立ち上がりで初回のブルーマーリンズの攻撃を三者凡退に抑える。一方、Bマーリンズ先発渡島投手は、先頭の竹尾選手に四球、続く道喜選手のライト前で無死一三塁のピンチ。三番立石選手はこのチャンスでセンターを超えるダイレクト本塁打で一挙3点を先制。続く四番内田選手も右中間三塁打し、初回到打者一巡するも後続が続かず3点止まり。しかし続く二回にも一・二番が四球で出塁するとまたもや三番立石選手が今度は右中間を超える大飛球。あと少しのところまでホームランか？という当りだったが、惜しくも2点タイムリー二塁打だったが、ここまで一人で5打点の大活躍。ジャガーズは完全に試合の主導権を握った。三回表、何とか流れを変えたいBマーリンズ先頭の山野選手がさすがベテランと言わせるライト前を放つも後続が倒れ0点。その後もジャガーズの攻撃は勢いが止まらず、三回到8点、四回到6点を追加し、22点の大量得点。投げてもジャガーズ内田投手が完封勝利と一方的な試合展開だったが、Bマーリンズは五回表にもベテラン阿部選手が意地のセンター前で、チーム2本目を演出。ベテラン組が模範を示すかのようにチームを鼓舞していたのが印象的で次回の試合で若手がどう挽回するか楽しみだ。(記事、写真：三苦フレンズ 肥喜里一征)



完封勝利を挙げた塩浜ジャガーズ先発内田投手。



ブルーマーリンズ先発の渡島投手。



この試合両軍1本目のヒットとなるジャガーズ道喜選手。



一回裏 右中間を抜ける三塁打のジャガーズ内田選手。



一回裏 軽やかにキャッチングするBマーリンズ足立右翼手。



二回裏 二打席連続本塁打か？ジャガーズ立石選手。



二回裏 ゴロを丁寧にさばくBマーリンズ末松三塁手。



二回裏 果敢にスチールを奪う岩崎選手。



三回表 Bマーリンズ初安打となる山野選手のライト前。



三回裏 WPでホームへ突入したジャガーズ竹尾選手。



四回裏 右中間へのタイムリーを放つジャガーズ荒木選手。



五回表 Bマーリンズの意地を見せた阿部選手のセンター前。

雁レク10 好投手同士の投げ合い、少ないチャンスをモノにした三球会に軍配!

新町パイレーツ (2勝2敗) 000001 1 吉田●-大濱

三苦三球会 (2勝2敗) 100110 3 吉留○-藤澤

HR: 大濱 (新町パ) 2BH: 小倉 (三球会) 盗塁: 小倉 (三球会)

前試合で負けているチーム同士の対戦で、ともに実力があるだけにどうしても負けたくない一戦は、新町パイレーツ吉田投手、三苦三球会吉留投手のエース対決。初回二死一三塁のピンチを抑えた三球会は、一番小倉選手が二塁打を放ち、二番渡辺選手のセカンドゴロにエラーが絡み1点を先取。早く追いつきたいパイレーツだったが、五回まで0行進。一方毎回ヒットでランナーを出す三球会は四回裏、先頭の五番塚和彦選手が四球で出塁し六番右山選手の送りバントで二進すると、七番浜口選手のライト前タイムリーで待望の2点目。五回裏一番小倉選手が四球、盗塁、WPで三塁まで進むと、四番塚太一選手のセンター前タイムリーで3点目と、得意の単打でつなぐ攻撃で試合の主導権を握る。何とか巻き返したいパイレーツは最終六回表、この日四番キャッチャーに入った大濱選手が意地のHRを左中間に放ち1点を返すもここまで。六回裏に三球会をトリプルプレーにする珍しいプレーが飛び出したが、結局1-3で三球会が勝利を収め、これで両チームともに2勝2敗となった。

(記事、写真：レッドサンデーズ 八島久徳、写真：前田篤史)



三球会先発の吉留投手。



パイレーツ先発の吉田投手。



一回裏 三球会一番小倉選手が二塁打を放つ。



続く二番渡辺選手のセカンドゴロがエラーを誘い先取点。



二回裏 三球会八番名田選手がレフト前ヒット。



8年ぶりにWS Lに復帰したパイレーツ田村二塁手。



四回裏 三球会七番濱口選手が右前タイムリーを放つ。



追加点となる堺和彦選手を回す山崎サードコーチ。



五回裏 二死三塁から四番堺太一選手のタイムリー。



3点目のホームを踏む三球会小倉選手。



六回表 完封を免れたパイレーツ大濱選手のソロHR。



四番捕手 1HRのパイレーツ大濱選手。



勝利を収めた三球会藤澤捕手（左）と吉留投手（右）。

	1	2	3	4	5	6	7	
Pirates	0	0	0	0	0	0	0	DP
三球会	1	0	0	0	0	0	0	
8 八坂三								23 桐島
9 升井中								30 田中
25 白岩遊								3 山野井
16 大濱捕								7 石橋
19 吉田一								14 白岩
5 川田一								18 横山
44 宮本指								4 伊藤
田村二								21 堀ノ内
28 大野左								6 上野
12 安部右								17 丸山
								27 中井
								10 牟田
								27 大前

パイレーツ自作のスコアボード。これイネ！

雁レクE 前年覇者フェニックス敗れる！！ウインズが逆転勝利

奈多フェニックス（3勝1敗1分）0010000 1 池見●ー実延
新町ウインズ （3勝3敗0分）000002X 2 藤田○ー今林

HR：高原（奈多フ）3BH：池見（奈多フ）永渕（新町ウ）

奈多フェニックス池見投手、新町ウインズ藤田投手という好投手の投げ合いは、三回表にフェニックス二番高原選手が左中間を破るHRを放ち1点を先制。その後両チームとも攻め手を欠き、迎えた六回裏一死から、ウインズ一番永渕選手がレフトオーバーの大きな当たりを放ち、三塁を蹴って同点のホームを目指すも本塁目前でタッチアウト！しかし二死から二番安藤選手がバントヒットでチャンスメイクすると、三番今林孝智選手は四球を選び、四番城戸選手へ。城戸選手は、つまりながらもライト前へしぶとく運ぶタイムリーヒットを放ち同点とすると、五番藤田選手の打席でフェニックスにバツテリーミスが出る。ワイルドピッチの間に三塁ランナー今林選手がホームを踏み遂に逆転すると、最終回を藤田投手が締めてウインズが見事な逆転勝利を飾った。両チーム合わせて17奪三振を奪う好投手同士の投げ合いは見応え十分だった。（記事、写真：奈多サンデーズ 鳥羽晃弘）



新町ウインズ先発の藤田投手。



奈多フェニックス先発の池見投手。



三回表 先制本塁打のフェニックス二番高原選手。



高原選手を出迎えるフェニックスベンチ。



六回裏 永渕選手が左越え打で本塁を突くもタッチアウト。



六回裏二死からバントヒットのウインズ二番安藤選手。



盗塁して、四番城戸選手のタイムリーで安藤選手が同点のホームイン！



六回裏二死ランナー無しから奇跡の逆転ホームイン！ウインズ三番今林孝智選手。



六回裏 痛恨のWPで逆転を許したフェニックス池見投手。



七回までの激戦を終えた両チームの握手。

第9週編集後記

WS Lの皆さん。コンニチハ！

第9週、7月14日は4試合が行われました。

青松園Aの三友クラブ対奈多クラブ戦は、初回の失点をものともせず、すぐに逆転した奈多クラブがその勢いのまま2-6で勝利。フェニックスから安河内選手を四番に迎えた打線はもう一枚厚みを増し、リーグで1、2を争うほどに。打たれたヒットも6本中4本が内野安打と今林瑠生投手の球威を物語っています。

奈多グラウンドのブルーマーリンズ対塩浜ジャガーズ戦は、11安打で22点を奪ったジャガーズが0-22の圧勝。安打以上にBマーリンズの与えた四死球が16個と・・・もはや試合になりません。投げてもジャガーズエースの内田投手が2安打に抑え完封勝利。

雁レク10のどちらもプレーオフで涙を飲んだ昨年の準優勝チーム新町パイレーツ対一昨年の準優勝チーム三苦三球会戦は、初回からエラーで得点した三球会が気持ちのゆとりをもちながら試合を展開していった。四、五回にきっちり浜口、堺太一選手のタイムリーで追加点を奪った三球会に対し、パイレーツは一、二回と三塁までランナーを進めるも決定打に欠け最終回に四番大濱選手が放ったHRの1点に抑えられ1-3で三球会の勝利。パイレーツ田村二塁手の8年ぶりWS L復帰戦は数多くの打球を捌いたものの、勝利で飾れなかった。パイレーツお手製のスコアボードはイイネ b(>v<)

雁レクEの奈多フェニックス対新町パイレーツ戦は、フェニックス池見投手7奪三振、ウインズ藤田投手1

0奪三振、与えた四球も2つずつという息詰まる投手戦。三回表に二番高原選手のソロHRで1点を先制したフェニックスだったが、その後三塁を踏ませてもらえず。六回裏のウインズ一番永淵選手の起死回生の同点HRかと思われた打球をフェニックス守備陣が見事な中継プレイでホームタッチアウトにした時点で勝利を9割方確信しただろう。しかし、二死から二番安藤選手の意表を突くバントヒット。そして三番今林孝智選手が四球で繋いで、四番城戸選手のタイムリーで同点。さらにWPで逆転と……。やはり「野球（ソフト）はツアーアウトから」とはよく言ったもので、昨年覇者フェニックスの手の平から勝利の二文字がするりとこぼれ落ちてしまいました。スリーアウトを取るまで気を抜かないと声を掛け合う必要性を再認識させられましたね。

まだリーグは序盤ながら無敗は奈多クラブ（4勝0敗1分）だけとなりました。今年はまだまだ波乱が起きそうです。こういう流れの時はまだ0勝ながらフレンズや1勝のジャガーズ、Bマーリンズ、三友クラブあたりが上位喰いをしそうです。

ポっという強打者が入ったり、既存のメンバーの出会い頭の一発などで一気に流れが変わる可能性がありますので、如何に点を取るかより、如何に失点をしないかを考えて試合に臨むことが重要になります。

そのためにも投手の制球力とバント処理力、捕手のインサイドワークと後逸阻止力と盗塁阻止力、野手の守備力と連携力と先読み力、控え選手の準備力と応援力、監督の起用力と統率力を高めてほしいです。

プロ野球もオールスターが行われ、新人がプロ野球を盛り上げています。今年WSLに入った新人の皆さん、そして復帰した懐かしの新人の皆さん、WSLの核となって熱い試合を展開してください！